

KSK

川崎市障害者社会参加
推進センター通信編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 中込 義昌
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 澤藤 充教
〒210-0834 川崎市大島1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E-mail zksk@nifty.com
http://kawashinkyo.org

第33回 川崎市民のつどい



川崎市では、毎年12月3日から12月9日までの「障害者週間」を記念する事業として、障害のある方もない方も、市民がともにふれあい、広くノーマライゼーションの理解が図られることを目的に、式典とふれあいコンサートの2部構成で「川崎市民のつどい」を開催しています。

第1部の式典では、からだの不自由を克服し、立派に自立更生している障害者本人、障害者の家族として功績があった方、民間の福祉従事者で障害者福祉事業に尽くした功績の顕著な方、その年にスポーツ等で活躍された方などの表彰や「心の輪を広げる体験作文」や「障害者週間のポスター」の優秀作品の表彰・発表を行っています。

第2部では、芸能人の方をお招きしての「ふれあいコンサート」を開催し、障害のあるなしにかかわらず、共に楽しめるようなコンサートを通して広く市民の皆様の交流を深めています。

今年度は、平成25年12月7日(土)サンピアかわさき・ホール(労働会館)にて、『第33回川崎市民のつどい』が開催されました。

初めに、主催者を代表して三浦淳副市長の挨拶があり、続いて浅野文直川崎市議会議員のご祝辞がありました。来賓紹介の後、表彰に移りました。副市長が、壇上にいる被表彰者一人ひとりに、表彰状を手渡しして廻りました。表彰終了ののち、「心の輪を広げる体験作文」で最優秀賞を受賞された長尾璃音さんによる朗読が行われました。題名は『おや子手話教しつにさんかして』です。



(写真：体験作文朗読の様子)

今年度お招きした芸能人は、1972年に歌手デビューし、野口五郎さん、郷ひろみさんとともに新御三家と呼ばれ一世を風靡、トップアイドルとして大活躍され、40年以上経った今もなお、日本の音楽界の第一人者で、不動の人気を誇る西城秀樹さんでした。

(事務局 澤邊俊文)

第 1 部式典 表彰者**◎川崎市障害者市民功労賞****○第 22 回夏季デフリンピック・ソフィア 2013**とくよしゆうすけ
得利雄介様 (自転車競技出場)わたぬきとしき
綿貫俊樹様 (サッカー男子出場)**○アジアユースパラ競技大会マレーシア 2013**ひろおかまさき
弘岡正樹様 (陸上競技出場)かざまけんたろう
風間健太郎様 (水泳競技出場)きうちやすと
木内康斗様 (水泳競技出場)わだかずき
和田一樹様 (ボッチャ競技出場)つのおとしひろ
角尾具洗様 (水泳競技出場)むらたけようた
村竹陽太様 (水泳競技出場)かとうわかた
加藤雅菜様 (ボッチャ競技出場)**◎「障害者週間」記念 川崎市長表彰****1 更生援護功労者**いしやまけいこ
石山啓子様 (福祉活動)たべじゆんこう
田部準光様 (福祉活動)おかみちこ
岡道子様 (音訳奉仕活動)ひがきみちこ
檜垣康子様 (音訳奉仕活動)**2 特別表彰者**かめやかずえ
亀谷和江様つるやたまえ
鶴家珠江様**3 心身障害児(者)福祉功労者**みやもとよしお
宮本善夫様 (団体活動)たぐちひろこ
田口ひろ子様 (団体活動)**4 精神障害者保健福祉功労者**いけがみひであき
池上秀明様 (福祉活動)**5 心身障害児(者)歯科治療事業**おおかめやすひさ
大亀泰久様 (歯科医師)**◎「心の輪を広げる体験作文」入賞者**ながおりおん
長尾璃音様 (最優秀賞)とめもりゆうか
留盛優歌様 (優秀賞)ほりはるき
堀春輝様 (佳作)**◎「障害者週間のポスター」入賞者**こまつさきまゆ
小松崎真由様 (優秀賞)**川崎市民のつどい 被表彰者の感想**

障害者になって約 10 年、1 年目 2 年目は人に会うのもいやで、外に出るのがおっくうでした。自分がどうしたいのか、どうすればい

いのかわからずもんもんとしていました。

そんな時、障害者手帳の手続きに行ってくれた主人に、「区役所で障害者の人達の講座があるらしいよ、参加してみたら？」と言われましたが、手帳を手にしてショックを受けた私の耳には入りませんでした。しかし、福祉課の方の強い誘いを受けて「いきいき生活講座」に思いきって参加する事にしました。

生来引っ込み思案で恥ずかしがりやの私です。人前で話したりする事が苦手です。自己紹介なんていうともう大変、声はふるえる、体はガクガクどうしようもない程上がってしまいます。初回はなんとか切り抜けました。月 1 回のリハビリ体操、調理実習、七宝焼と回を重ねるごとに楽しくなりました。半年があつという間に過ぎました。最終回で聞いた肢体協川崎中央の会と良友会に入会。二つの会の行事に少しずつ参加するうち、色々馴れてきました。同じ痛みをわかり合える仲間との会話、遊びやスポーツで過ごす時間、何をやってもへたですが、それなりにおもしろくて楽しいです。

そのうち妙に変な度胸もついてきて(自分でも不思議な位)人との出会いもふえて益々楽しんで参加したり、手伝ったりして来ただけですのに表彰される事になるとは夢にも思わない事でした。只々びっくりです。何もやってないよという思いでいっぱいでした。けれど「いいんだよ、受け取って、大丈夫！」という言葉に嬉しくなりました。12月7日「市民のつどい」の中での表彰式は、ドキドキでした。会場いっぱいの人達で圧倒されそうになりながらも、こんな体験は 2 度とないと思いい度胸をきめて、でもさすがに表彰状を読み上げている時は、思わずこみ上げそうになりました。このような賞を頂いたという事は皆様の御協力御支援があったからです。これからも無理をせずゆっくりと進んで行きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

ありがとうございました。(亀谷和江)

もうひとつの成人式 平成 26 年心身障害者成人式盛大に



(写真：第 1 部式典の様子)

平成 26 年成人式が、1 月 18 日（土）川崎市民プラザで行われました。

多くの家族や来賓の方々に祝福され、華やかな晴れ着やスーツ姿の成人者がおとなの仲間入りをしました。

この成人式は平成元年に始まりましたが、趣旨は、“成人を迎えた市内心身障害者で川崎市が主催する成人式への参加・不参加に関係なく、希望する障害者や家族及び関係者が一堂に集い成人を祝し、かつ励ますこと”を目的としています。

この会の発足のきっかけは、平成元年以前に川崎市内の市立養護学校で卒業生や在校生の成人を祝う会がありましたが、養護学校が増え、市立の養護学校独自の成人を祝う会を発展的解消し、(財)川崎市心身障害者地域福祉協会（当時）が主催団体となり、養護学校（市立養護、市立田島養護、県立高津養護、県立鶴見養護、県立中原養護）市内在住卒業生及び地域福祉協会関係団体の会員に声かけし始まりました。

平成 26 年成人式からは地域福祉協会が解散したことに伴い、主催は川崎市心身障害者成人式実行委員会となりました。

第 1 部式典は、平成 26 年成人式実行委員長の県立麻生養護学校・佐藤隆広校長の挨拶が始まり、卒業学校の先生方より参加した 131

名の成人者呼名、福田紀彦^{ふくだのりひこ}・川崎市市長より祝辞と記念品贈呈、浅野文直・川崎市議会議長と斉藤二郎・川崎市社会福祉協議会会長からの来賓祝辞に引き続き、市立養護学校卒業の小林涼月音^{すづき}さんと県立中原養護学校卒業の川口健太郎^{たけ}さんから成人者誓いのことばの発表が行われました。

2 人からは、これまで育ててくれた両親、先生方への感謝とこれからの抱負が語られました。

第 2 部パーティーでは、久しぶりに会う友達や先生方との軽食をとりながら楽しいひとときを、「げんき D o」の演奏が明るく華やかに盛り上げました。



(写真：第 2 部パーティーの様子)

【平成 26 年成人式実行委員会構成員】

- ・川崎市健康福祉局障害福祉課
- ・市立養護学校
- ・市立田島養護学校
- ・市立聾学校
- ・県立中原養護学校
- ・県立高津養護学校
- ・県立麻生養護学校
- ・県立鶴見養護学校
- ・川崎市育成会手をむすぶ親の会
- ・川崎市自閉症協会
- ・川崎市肢体不自由児者父母の会連合会

(成人式実行委員会事務局 安達)

第 40 回 精神保健福祉「県民の集い」に参加して

平成 25 年 10 月 17 日、川崎市高津市民館に大勢の参加者を迎えて「県民の集い」が盛大に行われました。参加者は、366 名でその内訳は表の通りです。

家族会	205 名	学校関係	5 名
一般	101 名	当事者	10 名
行政関係	11 名	その他	10 名
福祉関係	24 名		

式典では、NPO 法人じんかれんの堤年春理事長の主催者挨拶に続いて、三浦 淳川崎市副市長と神奈川県保健福祉局福祉部竹内幸夫障害福祉課長の祝辞の他 10 名の来賓の紹介がありました。

第 1 部講演は、向谷地宣明氏（ひだクリニック SST 担当）による「自分自身でともに、当事者研究でリカバリーを考える」が当事者 5 名も参加して行われました。1983 年から北海道浦河にある「べてるの家」で当事者研究は始められました。現在では色々なところで当事者研究が行われています。どうしたらリカバリーが出来るか、人・年齢によって違い、同じ方法をしていても反応する人とそうでない人がいます。また、人のライフステージによっても違います。

医療について、過去は病院側の一方的なやり方できたがうまくいっていません。現在では病院側と当事者が、自分は何が必要かを考え一緒に決めて（協働意思決定）います。

当事者研究では、当事者が知る、共有する、活かすことを実行しています。

向谷地先生のお話の後で、先生がリードして 5 名の当事者（ひだクリニックから 2 名、窓の会から 3 名）と一緒に、即席で当事者研究が行われました。ステップとして、一人の当事者の悩み（問題）を聞き、他の当事者から同じ体験を聞く。次に、病状（問題）が出やすいコンディションを聞く。最後に、自分が考えて行っている助け方を聞いた後で、そ

のことに對して他の当事者の体験を聞いてまとめられました。

当事者研究の中で、気付かされた点は、①自分が反応していることと自分自身を分けて考えるようにする。反応していることをお客さんと呼ぶ（外来化）。これは自分の考え方を变える（認知の転換）ことに役立つ。②当事者研究を進める上で大切なキーワードは、「なつひさお」（なやみ、つかれ、ひま、さみしい、おなががすいたの頭文字）で問題を考える。

休憩時間を使って、高原じんかれん副理事長が、家族が精神医療にどのように向き合えばよいか、その問題点を「家族が経験した医療に関する実態調査」からまとめた中間報告の資料について説明し、今後の予定を報告されました。

第 2 部講演は、木村尚美氏（ひだクリニック副院長）により「るえか式心理教育&リカバリー～ここまでできる当事者の力～」について、2 人の当事者と一緒に行われました。

先生が以前大病院に勤務していた時、当事者が自分の服薬の内容を知らない、病名を知らないことに驚かれた。薬物療法は重要で、当事者が自分の病名を知り（病名告知）、疾患を理解し、服薬の必要性を知ることが重要で、ひだクリニックでは医療側が患者さんの目線に立って対応している。また、当事者の自己対処能力をつけるために個別または当事者の集団を利用して心理教育をしている。

当事者のリカバリーのためには、少し負荷（ストレス）をかけることが大切である。ひだクリニックでは、当事者は当事者仲間とのコミュニケーション（ピアサポーターに助けられ）の中で、ストレスの解放について学び実践している。

最後に、星野理事長から今回の講演について、「家族を元気づけるお話をしていただき感謝」の言葉で閉会しました。（広報委員 K）

川崎市内の障害者作業所紹介

地域活動支援センター「みなみ」

昭和 62 年に母体となる家族会「あやめ会」の構成組織である川崎区「さんか会」のみなさんや保健福祉センターのケースワーカーの方々の働きにより、日中の活動する場を創設するために「川崎みなみ作業所」は誕生しました。平成 18 年の障害者自立支援法成立を迎え、平成 19 年 4 月から地域活動支援センター「みなみ」として心機一転、気持ちを新たに活動しています。

「みなみ」は川崎市の補助を受け、精神障がいを抱えた方々が主に通所しています。退院後の活動の場や就労に向けて生活のリズムを整え、集団の場での人間関係の練習などを経験できる場として利用されており、作業中心で活動しています。

主にチラシ折り、封入、シール貼りなどの作業をしています。週に 1 回、倉庫での梱包作業に出張もしています。



(写真：所内の作業風景)

月に 1 回は料理の日やレクでさまざまな場所に出かけています。作業だけではなく、社会の中で生きていくために様々な経験ができる場にしたいと考えています。



(写真：お料理の日 教育文化会館にて)

年に 1 回は、秋に川崎大師公園で行われる福祉バザーにも参加しています。



(写真：福祉バザーの様子 大師公園にて)

「みなみ」は、野菜とジュースを仕入れ、販売しています。また所長が心を込めて育てた盆栽も販売し、好評を得ています。みなさん、慣れない売り場を経験し、最初は緊張している様子ですが、お客さんとの会話などしながらの貴重な体験は終わった後、「楽しかった」と言ってもらえることが多く、売り子をする体験の場となっています。

現在は、利用者 22 名が登録しています。男性 15 名、女性 7 名、平均年齢 42 歳です。1 日に来所するのは 8 名～12 名。利用する日もみなさんの通所する目的や体調、体力的な状況を鑑みて、週 1 日利用する方から、週 5 日利用する方、その中でも体調によっては半日のみ等、利用する日にちは利用者さんに合わせてさまざまな対応をしています。

作業を通じて仕事に必要な集中力や手先の器用さ、段取りを考える大切さなどを養い、レクでは普段経験できない社会生活に必要な体験をしながら、集団生活を感じる場となっている「みなみ」を、メンバーのみなさんとこれからも一緒に活動していきたいと思えます。

(職員 清水克美^{かつみ})

地域活動支援センター「みなみ」

〒210-0828 川崎市川崎区四谷上町 12-25

エスポフジヨシ 102

TEL：044-276-5049

(公財)川崎市身体障害者協会 構成団体紹介 川崎市肢体障害者協会

川崎市肢体障害者協会は、創立 47 年を経た団体で、大師・田島・中央・幸・中原・高津・宮前・多摩・麻生、市内の 9 支部の会員で構成しています。

会員数は過去には 700 名を数えましたが、現在は会員の高齢化に伴う退会と、後継者を担う若い方の入会が絶えて久しく、この現象は他の団体にも共通する大きな悩みでもあると思います。

現在の会員は、協会全体で約 300 名前後を推移していますが、川崎市に於ける肢体障害者数は 8,000 人位いると推測されます。当協会が設立した当時とは、社会情勢も大きく変わり、福祉環境も改善されて障害者が等しく福祉の恩恵を受けられますので、敢えて障害者協会に入らなくてもとの思いと、個人生活が優先される傾向が若い世代に浸透している現状が、入会減少に繋がっていると思います。

現在は、在籍 10 年以上を越える会員が、中心となって諸活動に携わっています。年々高齢化に向かうメンバーの活動は、最盛期と比べ体力や気力の衰えは止む得ない事ですが、残されたメンバーで年間のスケジュールは何とか消化しています。川身協の開催する行事に参加できる会員がめっきり少なくなった事が、各支部にとっての大きな悩みとなっています。

肢体協本部の開催行事は、5 月の総会から始まります。平成 25 年度は、初夏の歩行訓練を 5 月 29 日、30 日の一泊二日で行いました。

丹沢の麓にある神奈川リハビリセンターを訪問して、同じ障害を負う方々の作業やリハに励む姿に接しました。センターで訓練している方々は若い人が中心で、これからの長い人生に健闘を祈る気持ちで施設を見学しました。

その後は、センターから 30 分程の距離に

ある宮ヶ瀬ダムの見学を兼ねて、新緑に囲まれた丹沢山系を背に大自然の中でこちよい汗をかきながら心身の鍛錬を行いました。

当日は、昼を過ぎた頃に急に霧が深くなりましたが、直ぐに晴れとなり遊覧船で湖上めぐりを行う事になり、チケット売り場で交渉しました。身障者は半額との事でしたが、大半の者が身体障害者手帳を福祉バスの中に忘れて持っていませんでした。「手帳がないと減免にならないよ」と云われましたが、全員が障害者であるので、駄目もとで交渉したところ、乗船者は川崎の私たちだけであることを確認した売り場の方が、「今日は大サービスするよ」と、前言を翻して全員を無料で乗せてくれました。心軽やかな歩行訓練の一日になりました。

宿泊は大井松田にある「勤労者あしがら村」に宿泊しました。

二日目は、「アサヒビール足柄工場」見学と、箱根湯本にある「地球博物館」を見学しました。ビール工場は以前と比べ、障害者には見学コースが厳しく規制されていて、車いす利用者は 1 人だけの入場しか認めてくれませんでした。聞くところでは、災害時に対応できないのが理由との事でした。地球博物館は地球の生い立ちや、神奈川の自然の紹介等がメインで、こどもたちには喜ばれる施設と思いました。



(写真：那須連峰 茶臼岳にて)

夏休み 8 月は、過去 10 年位続けた富士登山訓練も会員の高齢化に伴い、一昨年からは低山登山に変更して、「筑波山」にロープウェイを利用して登り、帰りに学園都市の宇宙資料館でロケット科学の全容を学んできました。

昨年の夏は、栃木県的那須連峰の「茶臼岳」にロープウェイで登り登山道を少し歩きました。山頂は濃い霧に隠れて、たまに姿を見る程度でしたが、雷警報が出るとロープウェイが運転中止になると言う事で早目に麓に戻りました。



(写真：那須岳ロープウェイにて)

夜は福島県の甲子温泉に一泊して温泉で疲れを癒し、翌日は観光地で有名な「塔のへつり溪谷」を見学した後、昔の宿場町で名のあつる「大内宿」を散策して往時の旅人の気分を体験しました。昼食は軒を連ねるそば処で「ねぎそば」の店に入り、注文した「ねぎそば」が曲がつたネギ 1 本を添えてテーブルに運ばれてきました。根元が曲がつたねぎが箸代りで、食べる時にねぎを「薬味」にして一緒に



(写真：大内宿)

食べる名物そばは、少し辛みがあつて美味しかったです。



(写真：大内のねぎそば)

休耕田を利用したソバ畑の白い花と、道端に咲くコスモスの彩りの花々が車窓に流れ、初秋の蒼い空に映える風景が、深く心に残つた旅となりました。

早春 2 月に肢体協文化祭を中原区の等々力公園内にある「会館とどろき」でカラオケ大会を行います。年 1 回のカラオケを楽しみにしている愛好者も多く、応援の会員共々に、年度最後の行事を参加者全員で楽しむひとときです。

各支部に於いても、それぞれ年間行事としての催しがあり、役員さんは結構忙しく活動しています。支部共催の行事を通じて親睦と交流を深め相互の生活向上に繋がる絆を大切に、毎年同じ企画で新鮮味に欠ける処はありますが、思いを新たに歩む川崎市肢体障害者協会の一端を紹介致しました。

(副会長 石山春平)



川崎市視覚障害者福祉協会 高齢者部 囲碁の会

囲碁を楽しみながら親睦を深めることを目標に、日本福祉囲碁協会の支援を得て、囲碁サークルを発足して、2年半となりました。月3回の例会には、現在、初心者から上級者まで、15名の会員が、視覚障害者用に考案された碁盤と碁石を使用し、指先の感覚で対局しております。今年6月には、県外の視覚障害者の囲碁サークルとの第2回目の交流戦を予定しています。(視障協 松本雄治)



※障害者社会参加推進センターでは、本紙へ掲載する作業所の紹介記事を募集いたします。

○テーマ：「川崎市内の障害者作業所の紹介」

○原稿字数：20字×40行～80行程度

写真やイラストも可

先ずは、お問合せ下さい。

川崎市障害者社会参加推進センター

事務局 担当：澤邊 (さわべ)

〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-8-6

TEL 044-246-6941 FAX 044-246-6943

Email sawabe@mbr.nifty.com

あやめ会公開講座

治療に携わっておられる白石先生より、病気や法改正後の入院や家族の対応等を聴いてみませんか。

日 時：平成 26 年 2 月 25 日 (火)

14:00～16:30

テーマ：「法律改正後の強制入院制度」

～精神障がい者を有する人と家族支援に向けて

講 師：白石 弘巳氏

(東洋大学ライフデザイン学部長)

場 所：川崎市総合福祉センター

(エポックなかはら) 7階大会議室

申込み：事前申込みは不要です。

※当日、直接会場へお越しください。

問合せ：あやめ会 [TEL:044-813-4555](tel:044-813-4555)

編集後記

私がストーマというイチモツを抱える身体障害者になって 18 年になります。神戸から川崎に戻ってきた折に、川崎市オストミー協会の存在を知り、入会しました。

それまで、ストーマケアは全く自己流でやっていたのですが、同じ障害を持つ仲間が増えますと、自己流でケアできるのは自分自身のストーマだけで、同じオストメイトといっても、各人の障害の状況は微妙に異なり、その対応も「千差万別」であることがよくわかりました。

オストメイトに限らず、ある障害種別の人を一括りにしたからと云って「皆さん同じ」ということでは片付けられない思いです。

これまで、本誌に投稿された多くの体験記にはたいてい、自らのケアについて

の創意工夫が記されていますので、つくづく、そう思います。

(三浦)

(頒価 100 円)

